

## JA 都市農村交流全国協議会第 1 回会議

JA 都市農村交流全国協議会運営事務局 第 2 分科会アドバイザー：早野 豊喜

### ① ワカモノ・女性が農業を楽しくさせる。農業を取り巻く環境変化：情報

日本銀行は成長分野として農業、観光分野にも着目し地域振興の柱になる産業としても位置付けしている。そういう中でファッション業界にも農業をテーマにしたトレンドが・・・

(2010 年 4 月 26 日付日経 MJ 16 面・新聞切り抜き、ノギヤルの農業プロジェクト“カワイければ農業もあり”のタイトルで農業の作業着イメージを変えるファッション潮流の紹介記事) ノギヤルファッションが農業を若者のトレンドとして取り上げ、新たな農業の風はファッションから?! 元気にしてくれるのは「ヨソモノ、バカモノ、ワカモノ」彼ら彼女らが都市と農村の交流に必要な登場人物であることを例えて紹介する。

### ② 農業経営アドバイザー資格取得者が汗する日々。JA のサービスを真似て市中金融機関も農村・農家を回り始める：情報

市中金融機関は従来の営業スタイルを一変して、農家・農村を訪問し、ふれあい訪問からビジネスの糸口作りに現場へ出かけ、一緒に汗をかく。東北地方のある銀行マンは営業車に長靴、タオル、着替えを入れて作業中の農家を巡回訪問。米作農家や畜産農家を訪問して金融相談をはじめ事業計画書づくりや自行の取引先や学校などをつないでの食材の購入・消費拡大支援、6 次産業化をはじめ都市部の消費者との接点づくり、はては嫁探しなどを積極的に支援しながら農家との新規取引を開拓している。JA が日々実施しているふれあい交流をヒントに新規ビジネスに活かして農家を攻略中。まめな交流が信頼をつないでいる例として紹介する。

### ③ JA 筑前あさくら(福岡県中央部)の職員が子どもの教育旅行受入手伝いを支援! そこから生まれた JA との絆復活～JA 事業拡大へ大きく結び付いた事例：体験

JA 筑前あさくらは、組合長の理解もあって日頃からアグリキッズスクール、田んぼ教室などを通じて都市住民との交流を展開中。職員はインストラクター資格を取得し積極的に農業体験を受入しており、昨年 9 月末に管内の農家のお孫さんが通う都市部の小学生約 120 名が 2 泊 3 日の「子ども農山漁村体験プロジェクト」で来村することが決まり、受入地域の村民は初めてのことで右往左往状態となり、地区の JA 支店長に相談に行くが小規模支店(4 名)のため対応ができず、本所職員に連絡し支援を依頼。業務の合間を縫って駆けつけ出来る限り受入の支援をすることを約束。支店長も勤務を終えた後に一旦帰宅して 1 時間かけて村まで戻り、受入勉強会に参加して体制を整える。職員や支店長の熱意もあり私を含め支援の輪が広がり各自役割分担して受け入れる。当日は 3 日間ともに悪天候だったにもかかわらず児童・教師・保護者から感謝され大成功をおさめる。最終日児童を送り出しの際は村人と JA 職員達が手を取りあって別れを惜しみ感動のシーンとなった。過疎化が続く村にあっては JA が大型合併をしたこともあって村民と JA との距離が若干広がりつつあったが、この受入協力によって一気に親近感と信頼感が深まり大きな絆が復活した。

### まとめ

以上の様な体験した私は、この JA 都市農村交流をはじめとする JA 暮らしの推進活動は市中金融機関や郵貯、保険会社、一般企業、商店などがマネをしたくてもマネの出来ない活動であり、農家組合員・地域住民との絆づくりに有利に役立つビジネスモデルとなり、JA ならではの長期営業戦略の柱になりうると確信しました。